チェックフィールド株式会社 代表取締役 目代純平氏 講義録

（総合政策学部 4 期生）

総政在学中に起業してから 25 年！

インターネット環境の変化とこれからのネット時代を生き抜くために必要なこと

■私について

皆さん、こんにちは。私は目代純平といいます。総合政策学部の 4 期生として 2000 年に卒業したので、卒業してから 23 年も経ってしまいました。月日が経つのは速いものです。しかし、自分としては、この教室に来るとあの頃の気分がそのままよみがえってきて、まだ学生の気分でいられる気がします。

4 期生の私たちが入学したのは 1996 年で、その次の年に初めての卒業生が出ました。私が入学したときはまだ卒業生はいませんでした。総合政策学部が始まってすぐの頃で、いろいろなことをまだこれからつくっていくという楽しさがあった時代に、皆さんと同じように学生時代を過ごしてきました。

本日は私のこれまでの経験をお話ししたいと思っています。皆さんが今後、社会に出る前に、大学生活でどのような準備をしておけばよいのかということも盛り込んで、いろいろな話をしていきたいと思います。

私が今の会社をつくったのは総合政策学部の 4 年生のときですから、気がつくとそれからからもう 25 年も経ちました。皆さんの中には、まだ 1 年生の方もいれば、3 年生の方もいます。これからもう少し時間が経って、卒業後は会社に入るかもしれませんし、大学に残る人もいるかもしれません。

いろいろな選択肢がある中で、いきなり会社をつくりなさいということを言うわけではありませんし、また会社に就職したほうがいいという話でもありません。一つの例として聞いてもらえばいいと思います。

私は今、会社の仕事とは別に、小学生や子どもたちに正しい IT を教える、東京都の e メディアリーダーという仕事を東京都の認定を受けてライフワークとして 15 年ほど行っています。

そして、水曜日の夜にフジテレビで放映している『ホンマでっか！？ TV』という番組に、ネット問題評論家という形で出演していますが、私は専門家であっても評論家ではありません。ただ、あの番組では出演者は勝手に評論家にされてしまいます（笑）。

■チェックフィールド株式会社について

当社はお客さまの IT の運用管理と運用コンサルティングを専門に行っている会社です。では、運用管理とは一体何でしょうか。皆さんも学校でパソコンを使ったり、ネットでいろいろなことを調べたりすることがよくあると思いますが、日々いろいろなことが起こると思います。インターネットにつながらない、プリンターが動かないということもあります。また Excel の使い方が分からないなどのいろいろな疑問も起こります。それは仕事をしている会社でも同じです。

お客さまの中にはいろいろな業種がありますが、社内に IT の専門家がいるわけではありません。いろいろなお客さまの、IT に関するお困りごとを解決したり、社内のパソコンやネットワークの使い方をお伝えしたり、また、お客さまの引っ越しなどに立ち会って、社内のネットワークを設計してつくることもあります。

特に、中小企業、中堅企業といわれる、社員数 50 人から 300 人程度の規模の会社の IT 関係の管理を行っていますので、 IT 業界の中でも少し変わった仕事をしていると言えるでしょう。先ほど言ったように、「IT に関するお悩みを解決すること」が当社の仕事です。

例えば、社員数が何千人、あるいは何万人規模の会社の場合、営業部や総務部と同じように、社内にシステム管理部や情報システム部などがあり、そこの部署の人が社内のシステム管理を行います。当社のお客さまの場合にはそのような部署がない所が多いので、私たちがそのような部署の代わりにシステム管理を担当するというイメージです。

現在、当社は 110 社ほどのお客さまの IT 管理を担当しています。代表的なお客さまとしては千疋屋総本店様があります。皆さんご存じでしょうか。東京日本橋にある老舗の果物屋さんです。当社は創業時から、この千疋屋さんの IT 関係を基本的に全部管理しています。ホームページ周りやネットショップのお手伝いもしています。

お客さまには会社だけではなく、社団法人や弁護士事務所なども多くあります。業種によって行うことも違うので大変なことも多いですが、みんなインターネットとパソコンを使いながら仕事をしており、インフラ部分は似ています。その意味では、いろいろなお客さまからいろいろな質問を受けたときに、類似の事例を見つけることはあります。 25 年間、いろいろなお客さまのいろいろな事例を見ているので、大抵のことはすぐに解決できると思っています。

本年、当社には 5 人の新卒社員が入社し、現在 32 名となりました。これまで自分がしてきたことを後輩に伝え、どのように一緒に仕事をしてもらうか、どのように 1 人で仕事をしてもらうかなどを日々考えるのが大変だと思っているところです。

■IT コンシェルジュ

今までお話ししてきたサービスを「IT コンシェルジュ」と言いますが、まさにそれが当社の主な仕事なのです。皆さんはコンシェルジュについて知っていますか？ コンシェルジュという言葉は最近、いろいろな場面で出てきます。広告などにも「不動産コンシェルジュ」、「保険コンシェルジュ」などと書いてあります。

本来、コンシェルジュとは、ホテルのフロントデスクの横にある、コンシェルジュデスクに座っている人のことです。大きなホテルには、コンシェルジュデスクがあり、そこにはコンシェルジュが 1 人か 2 人必ず座っています。

私も十数年前にアメリカに行ったときに、現地で非常にお世話になった人がいまして、帰り際にその人にお花を贈りたいと思いました。今ならネットを使ってすぐに手配できるかもしれませんが、その当時はネットでの手配がすぐにできるような時代ではありませんでした。そのような時にはコンシェルジュのところに行って、「お世話になった人にお花を贈りたい」と言うと、花のカタログを出してくれて、「このようなものがありますがどれがいいですか？」と尋ねてくれ、「これにしましょう」というように選ぶことができました。

また、例えばおいしいイタリアンのレストランに行きたいと思ったときにも、お店を調べてくれて、候補を挙げてくれます。とにかく、聞けばいろいろなことを教えてくれるのがコンシェルジュです。私たちはその IT 版ということで、「IT コンシェルジュ」という名前をつけて真っ先に商標を取りました。ですから、他の会社は、「IT コンシェルジュ」という言葉を使えないようになっていますが、当社は心の狭い会社ではないので、仮に他の会社が使っても訴えたりはしません（笑）。

■総合政策学部に入ったきっかけ

総合政策学部に入った理由としては、その頃はまだ 4 期生で、学部自体も何を研究・勉強するのかがそれほど明確に決まっておらず、何でもできると言われたということがありました。また、1 期生だった同じ高校の先輩に「中央大学の総合政策学部はいい」という話を聞いていたので、その勧めもあって総合政策学部に入ったのです。

入学当時はインターネットも今ほどは普及していませんでしたが、総合政策学部の学生は、その頃から全員が 1 人に一つのメールアドレスをもらうことができていました。

また、1 階のパソコン教室やワークステーションにパソコンがあり、全員が使うことができましたし、インターネットも優先してつないでくれました。今と比べると 100 分の 1 ほどの速度ですが、それでも一応、インターネットが使える環境はありました。その中で、1 期生の先輩にいろいろなことを教えてもらいながら、インターネットの広がりやインターネットがいろいろなことに使えることを学びました。

それで、インターネットはとても面白いものだと感じて、学校でコンピューターに触れることが楽しくなりハマっていきました。

日本で一般の人がインターネットを使い始めたのが、1995 年から 1996 年といわれているので、まさにその頃です。　今は他の大学にも総合政策学部があると思いますが、当時は中央大学、慶應義塾、立命館大学、関西学院大学くらいにしかありませんでした。総合政策学部は珍しかったので、他大学を含めた、総合政策学部の学生だけの交流会がよくありました。私もそのような会に参加させてもらっていたので、他大学の総合政策学部の人たちと交流する機会が結構あり、先輩も含め、そこでいろいろな話をしました。

当時、先輩からの紹介で NTT の窓口の人にインターネットを教える講師アシスタントのアルバイトをする機会がありました。私もネットには興味がありましたし、パソコンに触るのも昔から好きでしたので、そのつながりでいろいろな人と知り合うことができたのは、とてもよかったと思っています。

■会社をつくるきっかけ

会社をつくることになったのも、いろいろなことが巡り巡った結果です。私も最初から在学中に会社をつくろうと思っていたわけでも、卒業したら自分の会社をつくろうと思っていたわけでもありません。むしろ、最初は大手企業指向でした。私の父も普通のサラリーマンで、親戚の中にも自分で会社を経営している人は誰もいませんでした。ですから、大学を卒業したら企業に入るのだろうと漠然と思っていました。

1年生のときに、一橋大学の学生がつくった学生企業の手伝いをする機会がありました。その会社は、アパートの1室で始まりました。当時は、「HDE（ホライズン・デジタル・エンタープライズ）」という社名でしたが、今は社名が「HENNGE」に変わり、3年前に上場しました。私もその会社の創業メンバーの1人でした。吉祥寺のアパートの1室から始まった会社ですが、当時はアルバイトのような感じで、その会社もできたばかりでしたから、アルバイト代も満足にもらえず、サークル活動のような感じで働いていました。

その会社はパソコン家庭教師派遣のようなことをしており、パソコンを教えてほしいという連絡があると、登録している100人ほどのいろいろな大学の学生メンバーを派遣して、パソコンを教えていました。

私はその学生を束ねる担当をしていましたが、そのうちに大手電機会社から、アメリカで行われるインターンのプロジェクトに参加しないかと声を掛けてもらいました。当時はこれに参加したら、私はその電機会社に行けるかもしれないと少し思っていましたので、その話に手を挙げて行きたいと言いました。すると、学生を5人ほど集めてくれれば、皆を連れていってあげるという話が返ってきました。

そこで会社に登録している学生を集めて、アメリカまで連れていってもらいました。10日間くらいだったと思います。サンフランシスコとテキサスに行きました。今はいろいろな場所に光ファイバーが通っており、インターネットは家やマンションまでつながっているので、基本的には線を挿せばつながるようになっていますが、当時はそのような時代ではありません。ADSLという技術もまだあまり普及していませんでした。ですから、インターネットをつなぐときには、電話回線を使っていました。

それから約10年後には日本でもいろいろな所に光ファイバーが引かれることになりますが、当時は10年後にそうなることなど誰も考えていませんでした。光ファイバーのインフラを引くよりも、全てを無線にするほうが便利だという構想がありました。今では、スマートフォンのように、どこでも電波でつながってインターネットを使うことができますが、それのはしりのようなものです。今から約30年前なので少し早過ぎました。とにかく、光ファイバーのインフラを引かないで、全てを無線にすればいいのではないかという夢のような話があって、その実験をアメリカで行っていたのです。

そのアメリカのインターンは結構、楽しかったですし、今ではとても良い経験になったと感じています。ただ、大変だったのは、毎日のレポートを出さなければならないという課題があったことです。夜は半分寝ながらレポートを書いて、次の朝に提出しました。インターンですから、もちろん給料は出ませんでしたが、宿泊費や渡航費は全て出してもらいました。

あの当時は今より景気も良かったのかもしれません。私にとって、それに連れていってもらえたことは本当にいい経験となりました。

■人生いろいろなことが起こります

アメリカから帰国して、日本でそのプロジェクトをどのように進めるかを考えていましたが、いろいろな事情でそのプロジェクトが途中で止まってしまいました。そこで、集まった学生の間で会社でもつくらないかという話になってできたのが、今の会社（チェックフィールド株式会社）の前身の会社です。その前身の会社では、私は社長ではありませんでした。電機会社が「少しお金を出してあげるので、せっかくだから集まった学生で会社でもつくらないか？」と言ってくれました。それも太っ腹な話です。

もっと言えるのは、今では、1 万円あれば会社をつくることができますが、当時の日本で会社をつくるためには、最低でも 300 万円が必要でした。有限会社をつくるには、300 万円、株式会社なら 1,000 万円の資本金が必要でした。学生がそのようなお金をつくることは大変です。お金をくれたわけではありませんが、会社をつくってあげるので、学生たちで何かするようにと言ってくれて、驚きました。

当時はインターネットマンションやインターネット学生寮というのが流行っていましたが、今のようにすぐにインターネットにつながる時代ではありませんでした。インターネットマンションでは、建物まではインターネットが来ているので、挿せばつながります。しかも月に 3,000 円か 4,000 円払えば、一日中使えます。今と同じような感じです。ただ、速度は今の 100 分の 1 でした。

当時はインターネットをつなげる場合、電話代が必ずかかっていたので、それを気にすることなく、24 時間つなぐことができるということが、非常にもてはやされた時代でした。先ほどの電機会社の関連の会社がインターネットマンションやインターネット学生寮、インターネット社員寮を展開していく計画がありましたが、一つ障壁がありました。それはパソコンの価格です。今は iPad も数万円で買えますし、ノートパソコンも 5 万円ぐらいから買えますが、当時、ノートパソコンを 1 台買うには、30 万円くらい必要でした。ですから、入学してすぐの学生や、入社してすぐの社会人には高くて買えません。

私たちは最初、そのような学生や入社してすぐの社会人のために中古のパソコンを月に 3,000 円程度で貸し出すビジネスをしていましたが、需要は結構ありました。

その後、出資してくれた電機会社から、その会社を当時売れ始めていた携帯電話のお店にしたいので、返してほしいと言われました。そのときには既に独自のお客さまも少しついて仕事っぽくなっていたので、返してくれと言われて困りました。そんなときに、今も一緒に会社を経営している、山下という当社のナンバー２に久しぶりに電話をし、2 人でもう一つ会社をつくってみようという話になりました。

先ほど話したように、当時は会社をつくるのに 300 万円が必要でした。それで、私と彼で 150 万円ずつ、合計 300 万円を何とか用意してつくったのが、今のチェックフィールドという会社です。

このように人生は本当にいろいろなことが起こります（笑）。

1999 年、私が総合政策学部 4 年生の 7 月にチェックフィールド株式会社という会社をつくりましたが、最初は本当にお金がなかったので、最初のオフィスと 2 番目のオフィスは、お客さまの会社の一角に机を二つだけ借りていました。 3 年目か 4 年目くらいに、小さいですがやっと自分たちだけのオフィスをつくることができました。

「どのような会社に就職したい」、「どのような業界に就職したい」ということをまだ考えていなくてもいいと思います。会社に入ってから、その仕事が自分に合っているかどうかを見極めて、合っていればそのまま続ければいいですし、他のことがしたければそれでもいいと思います。最初からやることが決まっていたら良い気がしますが、そのような人はあまりいません。ですから、今決まっていなくても、不安になる必要はありません。

■ネット中毒、ネット依存症からの脱却を

さて、私は特にお客様の会社の新入社員研修や大学生の皆さんに、ネット依存症やネット中毒という話をする機会が多いので、ここでその話を少ししたいと思います。皆さんも普段はスマートフォンを持っていることが多いと思います。

自分が依存気味だと思う人はいませんか。電車に乗っても、皆が普通にスマートフォンを使っています。スマートフォンを使うこと自体が悪いわけではありませんが、時間があるとすぐにスマートフォンを見てしまうという人は多いと思います。

特にコロナになってからネット依存が非常に増えているといわれています。あの時期は全ての人がコロナのためにすごいストレスがかかったので、それが原因の一つかもしれません。テレワークになったり、学校に行けなかったりした時期もありましたが、それがストレスで、ゲーム障害やネット依存の人が約 1.5 倍になっているといわれています。全国で 800 万人くらいの人、つまり全人口の約 6 パーセントの人が、ネット中毒とネット依存に片足を突っ込んでいるといわれています。

スマートフォン依存やネット依存がなぜ起こるかについて、先日、脳科学の専門の先生に話を聞きましたが、依存症になる原理はアルコールやギャンブルと同じです。ドーパミンのような、いわゆる脳内麻薬といわれるようなものが出てしまうと、気持ちがいいので、脳がその感覚を忘れられなくなります。その脳内麻薬を出すトリガーになるものは、ネットでなくても何でもいいのです。それがアルコールの人はアルコール中毒になります。競馬やパチンコなどのギャンブルが好きな人は、ギャンブルをして興奮したときに脳内麻薬が出て、それが忘れられなくなってしまいます。それと同じように、ネットでは調べ物、ゲーム、動画視聴など、いろいろなことができるために、脳内麻薬を自分の中で出してしまい、次にまたそれが欲しくなり、依存するようになってしまいます。脳の中で起こっているのは全く同じ状況です。また、スマートフォンが便利過ぎるために、自分で考えたり人と関わったりする機会が減るということもあります。これは地味ですが、大きな問題だと思いませんか。

ところで、皆さんは YouTube や TikTok などを見ますか？私には動画を見るという習慣があまりないので、YouTube などはそれほど見ません。大学生だけでなく、もっと小さい小学生や中学生、高校生もそうですが、YouTube や TikTok を見まくって、時間を浪費することが大きな問題になっています。私も、最近はいろいろな学校でその話をしてほしいと頼まれることが増えてきました。

とにかく、スマートフォンも含めて、ネットが使えるものは単なる道具です。その道具に振り回されて、大切な時間を失うのは本当に愚かなことだと思っています。スマートフォンは時間つぶしには最適な道具です。電源がある限りずっと使えます。特に今は一つの動画を見終わると、「この動画を見ている人はこれも見ています」、というようなものが出てきて、連続して見るよ

うになってしまいます。

昔のテレビの場合は、一つの番組が終わったら次の番組になるので、興味がなければテレビを消すということができましたが、最近はそれがありません。自分の時間がある限り、自分が強い意志を持って「ここでやめるぞ」と思わなければ、いつまでも見続けてしまいます。ある程度大きくなってくると、仕事もあり、学校もあり、宿題や課題もあるので、「ここで止めよう」ということができるかもしれませんが、小学生や中学生などの小さな子どもは、そのようなことがないために、際限なく見てしまい、それが今、いろいろな問題になりつつあります。

YouTube や TikTok は人の時間を浪費して、それをお金に換えるシステムです。彼らとしても、当然、多くの人に見てもらうほうが、視聴数が上がり、広告費も上がります。ですから、とにかく見させようとしており、本当に麻薬を差し出されるような仕組みができています。自制心がなくて次から次へと見ていると、本当にはまってしまいます。

特に今、ショート動画と呼ばれる、1、2 分で終わるような動画が次々と出てきます。それをだらだらと見続けて、気が付くと 1 時間や 2 時間がたっているということにもあります。そのようなものを息抜きとして自由時間に少し見るのは構いませんが、1 日 24 時間の使い方をもっと考えたほうがいいと思います。スマートフォンやネットができたからといって、私たちが使える時間が 24 時間から 30 時間になったわけではありません。24 時間しかない中で、寝なければなりませんし、学校にも行かなければなりません。課題もしなければならず、お風呂にも入らなければなりません。食事もしなければなりません。そのように考えると自由な時間はそれほどありません。睡眠時間を削って動画に時間を取られてしまうのは本当に愚かなことです。

学生時代には勉強だけをしろということは言いませんが、友達と語り合ったり、ばかなことをしたりすることのほうがはるかに大切です。なぜならばそれらはそのときしかできないことだからです。動画なんて、見ようと思えば後からいくらでも見ることができます。

私のように学生時代を終えて長い年月が経過すると、学生のときに「しておけばよかった」と思うことがとてもたくさんあります。ですから皆さんは、ぜひ、変な動画などに時間を取られないようにしていただきたいと思います。自分の大切な時間を奪われないようにしましょう。そのように意識しているかどうかで、全く違う結果になると思います。これはかなりの覚悟が要ることです。自分の考えをきちんと持って、有効な時間の使い方を常に考える人が勝つと思います。流されて時間を浪費する人は負けると思います。資格の勉強をするにしても、他の何かを勉強するにしても、ある程度のまとまった時間が必要です。その時間を資格のための勉強や将来のための勉強をするか、くだらない動画に費やすかという選択です。

■会社の一番の目的と、一番大事なもの

皆さんはフレッシュな大学生なので、会社において大切なことを話します。私たちが会社を経営していて、どのようなところに重きを置いているのか、学生のうちにしておいたほうがいいと思うことについて、参考程度にお話しできればと思います。

私は、会社の一番の目的は存続だと思っています。会社は長く続かなければ意味がありません。もちろん、会社にお金がなくなれば会社はなくなってしまいますが、私は、利益は後からついてくると思っています。

会社で一番大事なものはなんでしょうか。これはやはり中で働いている人であり、お客さま

です。当然、いい仕事をすれば、会社は存続します。お金は本当に後からついてくるので、まずはお金ありきで会社を経営するよりも、いい仕事をするほうがよいと思うのです。例えば、本年は非常にもうかっても、来年は全くもうからなくて会社がつぶれたというようなことがあれば、社員もお客さんも非常に困ります。そのような仕事はするべきではないと思っています。どのような仕事でも人と人とのつながりから始まります。かつてはコロナのために、「人と会ってはいけない」、「人と会うとコロナに感染する」などといわれて、接触機会を減らすような時期がありました。その流れで、最近では何でも自動販売機で買ったり、お店に行ってもセルフオーダーになっていたりして、人と会わないでオーダーして、片付けまで全てできるような仕組みが次々に導入されています。もちろん、業種にもよりますが、自動販売機のような機械を置いておくだけでは仕事は全く継続しないと思います。どの仕事も人と人とのつながりで話をして進めるということが繰り返されて、それによって仕事も社会もつながっているのです。

働くとは、人や社会の役に立つことだと思っています。もちろんお金を稼ぐことでもあります。なぜお金を稼ぐのでしょうか。仕事をしたことに対して、お客さまから対価を頂けるのでお金を稼ぐことができます。ですから、そこに暴利を乗せるのはよくありません。そのときはいいかもしれませんが、来年からは仕事をもらえなくなってしまうかもしれません。適切な価格で良い仕事をしていくと、継続していきます。

私たちも長年仕事をしてきましたが、役に立たなければお金は頂けません。例えば、非常にまずいレストランに行ったとして、食事をしたのだからお金は払いますが、おそらくそこには二度と行かないと思います。それと同じで、役に立たなければ、お金をくださいとお願いしても、「仕事ができていないので払いません」という話になります。屋根はありませんが、家を造りました、と言えば、屋根は造ってくださいという話になります。不完全な仕事でお金をもらうことは当然できないのです。

良い仕事を続けるからこそ、会社も継続するのです。おかげさまで、私の会社も 25 年たちました。振り返ってみると、当社が非常に良い仕事をしてきたかどうかは分かりませんが、総合的に見れば良い仕事をしてきたので、お客さまも当社をずっと使ってくれているのだろうと思います。

創業して 10 年続く会社は 10 パーセントしかないと言われます。これは昔からよくいわれることですが、10 年が経過すると、10 社のうちの 9 社はなくなってしまうということです。これはにわかには信じがたいことですが、そうなのかもしれません。もちろん、つぶれるだけではなく、途中でやめるという人もいるかもしれません。いろいろなことを含めて平均すれば、継続する会社は 10 パーセントくらいなのかもしれません。さらに言えば、20 年続く会社は、恐らくもっと少なくなり、5 パーセントや 6 パーセントになるのかもしれません。それでも当社は 25 年継続して来られました。

その意味でも、継続することはとても大事なことです。当社は、おかげさまで良いお客さまと社員に恵まれていると思います。今、会社は良い感じで回っています。もちろん、コロナのときには、会社に来るなと言われて不安定になり、辞めてしまった人もいないわけではありませんが、本年も新しい社員が入ってきてくれて、頑張ってくれています。コロナのような、あれだけインパクトのある出来事があるといろいろなことが変わってしまいます。

会社組織において大事なことがもう一つあります。それは、「アルバイトと正社員の違い」です。 私も大学生のときにはアルバイトをしていました。総合政策学部は今も忙しいと思うの

で、普段からアルバイトをすることはできないかもしれません。当時は私も結構忙しかったので、夏休みなどの長期休暇くらいしかアルバイトはできませんでした。

最近の学生はアルバイトをしている人が多いので、会社に入ってからも、「この仕事を1時間するといくらくれますか」という感覚の人がたまにいます。それは仕方ないと思います。学生のときはそれしか知らないからです。これだけの時間、この仕事をしたので、これだけのお金をくださいというのは当然のことです。ただ、社員として会社に入った場合、アルバイトと違うのは、仕事してもらえるのはお金ではなく、「知識と経験」だということです。

先ほど言ったように、知識と経験のある人が仕事をするからこそ、お客さまはお金を払ってくれるのです。誰も知識と経験のない人にお金を払いたいとは思いません。自分が病気になって手術が必要になったときに、医者になって1年目の人と20年この手術をしている人のどちらに手術をしてもらいたいかと言えば、それは明白です。自分はチャレンジャーなので、値段が安いからといって1年目の人に進んで手術してもらいたいという人はあまりいないと思います。それと同じ話です。

私たちも25年この仕事をしていると、ITの分野でいろいろな経験をしています。ですから、「お客様の困りごとに対して何をすればよいか」はすぐに分かるようになってきています。その知識と経験が増えれば増えるほど、いろいろなことができるようになり、お客さまはそれに対してお金を払ってくれます。そのお金が会社に入ってきて、それを分配したものが皆さんの給料です。

ですから、知識と経験をどれだけ蓄えるかが大事なところだと思います。お金は本当に後からついてくるので、まずお金ありきで入らないほうがいいと思います。アルバイトで得られる知識と経験と、社員でなければ得られない知識と経験は全く違ってきます。

その意味では、正社員は家族のようなものです。その家族で会社をどのように進めていくか、どのようにお客さまの仕事を進めていくかを常に考えて仕事をしています。特に小さな会社では人が全てです。いい人がいて、いい仕事をしてくれれば会社は大きくなりますし、反対に仕事が好きではなかったり、仕事に対して否定的な人がいたりすると、会社にとってはあまりいいことではありません。

■Company Social Responsibility～会社の社会的責任～

次にCSRの話をします。CSRとは何か。レジュメには「Company Social Responsibility」と書いてあります。会社が社会的責任を果たすために、仕事だけではなく、何か他のこともしましょうということです。会社の役割として、CSRはとても大事だと思っています。

なぜ会社のためにCSRが大事なのでしょうか。先ほどからお話しているように、社会の役に立つことが会社の役割です。その対価としてお金を頂きます。それは正常な企業活動です。それに加えて、会社としてもう一つできることがあります。当社の場合には、当社が持っているITの知識と経験を会社のお客さま以外の人にも提供することができます。例えば、本日、皆さんにお話をすることによって、少しでもお役に立てればいいと思っています。それもCSRの一つだと思っています。

当社のCSR活動として以前から私がしているのは、特に小学生や中学生くらいの子どもたちに正しいインターネットの使い方を教えることです。先ほどのように、一日中YouTubeやTikTok

などを見ないほうがいい、それよりも自分の時間のほうが大事だという話をしています。子どもたちと話をするときは、1日の時間割表の円形図を書いて説明します。業務で得た知識と経験を社会に還元できるようなことをしたいと思って、ネットの安全な使い方を子どもたちに教えたり、雑誌やネットニュースなどの記事を書いたりしているのです。

当社がこれまでにCSR活動をいろいろしてみてよかったと思うことがあります。私が中心になって行っていますが、外で講演活動をしたり、記事を書いたりしていることを当社のウェブサイトで発表しています。当社に初めて仕事を頼もうと思って連絡をくれたお客さまと成約した後に、当社を選んだ理由を尋ねると、「社長や会社が子どもたちのIT教育を行ったり、記事を書いたりしているところに感銘を受けた」と言ってくれることがあり、とてもうれしく感じています。「そのような会社なら安心だと感じて依頼した」、と言ってくれることがあります。CSRをしていることによって、お客さまに信頼していただけるという効果はあると思っています。

当社はお客さまの業務にかなり入り込んで仕事をすることが多いです。お客さまのサーバーやネットワークの全てを管理させてもらうということは、お客さまの大事なものに関わるということです。お客さまのサーバーの中には、お客さまの会社の財務情報や社員の給与情報などが入っており、当社はそれを業務として預かって管理しなければなりません。当社はその中身を業務上で知り得てしまうことがあるかもしれません。当然、業務上知り得た事柄を外に出してはいけないという契約の上で仕事をしているので、それらを外に出すことはありませんが、当社はそれほど大事なものを預かっているので、初めて仕事を依頼するときには、お客さまも心配していると思います。この会社に依頼をして大丈夫だろうか？という思いがあると思います。CSRは、そのような場合に選んでもらうための一つの指標になると思っています。

■大学生のときに身に付けておいたほうがよいこと

次に「大学生のときに身に付けておいたほうがよいこと」について触れます。私も会社の中で社員を採用する立場になりましたが、「どのような人と一緒に仕事をしたいか」、「大学時代に何をしていた人に当社に来てほしいか」ということを考えてみました。

まず当然のようですがPCのスキルがあります。皆さんは普段からワードやエクセル、パワーポイントを使っており、今後もそれらを使ってプレゼンテーションを作ると思いますが、PCのスキルは絶対に身に付けておいたほうがいいです。

それから、インターネットにはいろいろな情報がありますが、その全てが正しいわけではないので、正しい情報を吟味する力は絶対に必要です。インターネットからの情報には間違ったものもあります。また、わざと間違った情報をインターネット上に上げている人もいます。情報が正しいかどうかは自分で吟味しなければなりません。これを身に付けることはとても大事です。また、インターネットがつながらなくなったり、プリンターが動かなくなったりしたときの対処法を知っておくと、とても役に立ちます。

2番目は語学のスキルですが、まずは日本語です。日本語は普通に使えると思うかもしれませんが、伝わるだけではなくきれいな日本語を使って話したり書いたりすることはとても大事なことです。そのためになるべく多くの本や新聞を読むことも大事です。昔からいわれているので、いまさら古くさいことを言っているという気がするかもしれませんが、これはやはりとても大事なことです。きれいな日本語できれいな文章が書けるようになったり、説得力がある表現を身に

付けたりするためには、他の人が書いたきれいな文章を読むことが本当に重要です。最近では本や新聞を読む人が非常に少なくなってきており、出版社が次々につぶれていくくらい本が売れません。先般私が本を書いたときは、緊急事態宣言の真っ只中で時期もよくありませんでしたが、そうでなくても今は本当に読む人が減ってしまって本が売れません。だからこそ、電車の中ではスマートフォンではなく、敢えて本を読んでほしいのです。Kindle やスマートフォンで本を読むということでも構いません。

そして英語は必須です。仕事をしていて英語を使えるかどうかでかなり大きな差がつきます。当社のお客さまにも外資系の会社が多く、ドイツの船会社やアメリカやイギリスの機械商社などのお客様があります。最近は、本国の IT チームからいろいろなオーダーが飛んできます。さらにコロナの後からはウェブ会議をする機会が増えてきました。そのような場合には、当然英語が必要です。特に、当社のようにお客さまの IT 管理を専門に行っている会社はそれほどありませんが、その中で英語対応できる会社は当社くらいしかないはずです。そのために長い間ずっと当社を使ってもらっているところもあります。

IT だけではありませんが、これから仕事をしていくには、英語が必須です。幸い総合政策学部にいれば英語を勉強する機会はたくさんあるので、ぜひ勉強しておいてください。私も総合政策学部にいたときには、英語がきつくて、半分鼻血を出しながら勉強していましたが、それが今とても役に立っていると思っています。

また、中国語でもフランス語でも、スペイン語でもいいのですが、英語以外に、もう一つ言語を使えるようにしておくととても役に立ちます。そこまで高いレベルでなくても構いません。私は昔台湾に住んでいたので、中国語を少しかじりました。日常会話くらいはできると思っています。ただ、このレベルをもう少し上げたいと思って、3 年前に 1 年間ほど中国語を習っていました。私の最終的な目標は、日本語と中国語と英語を同じレベルまで持っていくことですが、そうなれば最強だと思います。現在、英語なら仕事はできますが、中国語で仕事をするのは少し厳しいです。しかし、中国語をそのレベルまで持っていきたいというのが私の 5 年後までの目標です。

隣の中国や韓国などのアジアの国には、母国語だけではなく、3 カ国語以上を自由に操れる人がとてもたくさんいます。日本にいるとあまり気がつきませんが、本当にいます。その人たちと一緒に戦うためには、そのスキルは自分で持っていなければまずいです。仕事をしているととてもそう思います。

もう一つ身につけておくべきはプレゼンテーションスキルです。話すスキルは当然大事ですが、聞くスキルも大切です。相手の話にも耳を傾け熱心に聞くという傾聴力があると、相手が本当に話したいことを引き出して理解することができます。相手が言っていることを 100 パーセント理解して、きちんと言葉のキャッチボールができないといけません。私も学生時代を含めて、プレゼンテーションをたくさんしてきました。本日、皆さんが帰るときに、私の言いたかったことが誤解なく 100 パーセント皆さんに伝われば、本日のプレゼンテーションは成功です。もしも何かの誤解が生じてしまったり、長々としゃべっても何が言いたかったのかさっぱり分からなかったと言われたならば、私のプレゼンテーションは失敗です。失敗のプレゼンテーションをしても、お互いの時間が無駄になるだけなので、そのようなプレゼンテーションはするべきではありません。

ですから、私も話したことがきちんと伝わるように心掛けています。また、聞くほうのスキル

として、途中で分かりにくかったというところがあれば、すぐに聞くことも大事です。お互いが聞く努力と話す努力を両方することによって、誤解が生じないコミュニケーションができます。コミュニケーションというのは、お互いのプレゼンテーションの繰り返しなのです。

友達でも、家族でも、恋人でも、けんかをするということは、必ずどこかでミスコミュニケーションが発生しているのです。仕事の上でそれをするとクレームになります。クレームになるとそれを処理するために、本来は必要ではない時間を使わなければならなくなります。それによってお客さまとの信頼関係が失われれば、仕事に支障が出ます。ですから、お互いにコミュニケーションをミスしないように、常に努力しなければなりません。それはとても大事なことです。総合政策学部にいれば、プレゼンテーションのスキルは授業の中で絶対に学べるはずです。私も総合政策学部で学んだことがベースになっています。

そして、プレゼンテーション資料を作るときに心掛けているのは、誤字や脱字をしないことで、これをしてしまうことは論外です。チェックミスで、漢字が間違っていたり、誤字があったりすることがたまにありますが、そのような場合、資料を見ている人はそこばかり気になって、他のことが全く頭に入ってこなくなってしまいます。

人がプレゼンテーションを見たり、資料を読んだりしているときには、無意識に、「次にこのような言葉が来るだろう」ということを常に予測しています。これを「メンタルモデル」といいます。しかし、誤字脱字を見つけた瞬間に、そのメンタルモデルが崩れてしまいます。その結果、その後の言葉が頭に入ってこなくなってしまうのです。

ですから、聴衆のメンタルモデルを崩さないためにも、 誤字脱字は絶対にしてはいけません。必ず事前にチェックする必要があります。さもないと、説得力が一気にゼロ、あるいはマイナスになってしまいます。

文章を書く力を付ける。これも通じるだけではだめです。きれいな日本語を書く力が必要です。これから社会人になると、仕事上で報告書を書くことがありますが、報告書では、その場にいなかった人を含めて、誰が見てもその状況が完全に想像できるものを書かなければなりません。例えば、主語を抜かしてしまうと、誰がしたことか分かりません。よく 5W1H と言いますが、それが本当に大事です。いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように、ということをそれに応じて全て書かなければ、第三者が見たときに、誰が何をしたのかが分からなくなり、それをまた尋ねなければなりません。聞かれた方はそれを受けてまた説明することになり、時間の無駄です。最初からきちんと書いてあればすぐに分かります。そのようなものを書くスキルを身に付けることはとても大事です。

報告書やメールもそうですが、送ったり、登録したりする前に、必ず自分で読み返す習慣は絶対に必要です。どこかが間違っている可能性があります。それで問違いがあっても、送信前に直せば問題ありませんが、送信してしまえば直すことはできません。

また相手の名前の表記や読み方を絶対に間違えないようにすることも大事です。私も「目代（モクダイ）」という珍しい名前なので、読んでもらえないことが多いです。すぐに、「メジロ」さんと呼ばれることがありますが、私はメジロではありません。分からない時は必ず聞くようにします。聞くことは恥ではないので必ず聞いて、ふりがなを振っておくことができます。それはとても大事なことです。

昔の取引先で、メールを送ってくるときに私の名前の目代の「代」を踏み台の「台」と書いて

送ってくる人がいました。こちらは自分の名前をきちんと書いているのに、その人は次にもまた踏み台の台を書いて送ってきました。そしてそのような人と仕事をすると あとあと大変なことになるということを学びました。そのような人は、それ以外のことについても注意力がない人なので、何かを頼んだりしても違うものを発注されたり何かを忘れたりということがありがちなのです。これは本当の話です。ですから、そのような人はそこだけで警戒されてしまいます。警戒されないためにもこちらが充分気をつけるべきなのです。

次は、積極的に「さまざまな人との接点を持つ」ということです。最初に話をしましたが、私が今の仕事につながっている最初の接点は、先輩や他大学の総合政策学部の先輩でした。そのような人とのつながりで巡り巡って一橋大学の学生の学生会社を手伝うことになるなど、いろいろな経験ができました。ですから、これからも先輩とのつながりを大事にして、興味のあるインターン募集や業務体験などには積極的に応募して参加するほうがいいと思います。

仕事や人はどこでつながるか分かりません。「袖すり合うも多生の縁」とはまさにそのことです。これからコロナが終わると、学生交流会などが開催されることも多いと思います。OB 訪問や OG 訪問にもぜひ行ってください。それで迷惑に思う先輩はいないはずです。当社でよければ、皆さん、いつでも来てください。歓迎します。

インターンシップに参加することもとてもいいことだと思います。コロナも落ち着いてきて、今後はいろいろな会社がインターンシップを行うと思います。ネット上にもいろいろな情報が落ちているので、ぜひ見てください。会社によっては、1 年生や 2 年生でも参加できるものもあります。ぜひ情報収集して参加してください。

インターンを経験してから就職して仕事をすると、スタートラインに立ったときに、フライングできます。仕事の場合はフライングしても構いません。皆がスタートラインに立っているときに 自分は 5 歩先にいることができます。これはとてもいいことで、社会人を始めたときに全く違ってきます。それが非常に大きなアドバンテージになるので インターンにはぜひ参加してください。インターンに参加したからといって、その会社に入らなければならないわけではありませんし、学生たちに社会を経験させるためにインターンを行っている会社もあります。

また、資格を取っておくということもあります。社会人に比べると学生時代のほうが時間が取れます。夏休みもあります。私も採用する立場になったので言えるのですが、学生時代に資格を持っている人を見ると、この人はそのためにきちんと努力ができる人だという評価ができます。

例えば採用するとき、本当は 2 人を採用したいのですが、どうしても 1 人しか採用できないような場合に履歴書を見て、資格を持っている人と持っていない人がいれば、資格を持っている人を採用する可能性が高いと思います。それは IT の資格に限ったことではありません。具体的には IT 系の資格もいいと思いますが、旅行が好きなのであれば旅行業務取扱いなどの資格を取ってもいいと思います。不動産が好きであれば、宅建を取ってもいいと思います。

語学系の資格である TOEIC なども取っておいたほうがいいと思います。もっと専門的に、税理士、公認会計士、弁護士などもいいと思います。そこまで難しいものではなくても、世の中にはいろいろな資格があります。IT 系や語学系の資格であれば取っておいて損になることは絶対にないはずです。

最後に、大人になると忘れてしまう基本的なことですが、「あいさつをする」ということです。こんなことは知っている、と思うかもしれませんが、大人になると皆、あいさつをすることを忘れてしまいます。取りあえず、元気な声であいさつしましょう。相手の目を見て、大きな声

ではっきり話しましょう。下を向いてぼそぼそ話している人と、「こんにちは」とあいさつできる人のどちらと一緒に仕事をしたいかと言えば、それは明白です。

当然 お客さまも元気な人やレスポンスのいい人と仕事をしたいはずです。毎日、元気でにこにこして不機嫌にならない。これは大事です。見た目と印象は案外とても大事です。いつも下を向いてぼそぼそしゃべる人やいつも不機嫌で怒っている人は、そもそも信頼できません。また、「ありがとう」を忘れないようにして、どのようなことでも感謝しましょう。今日朝、目覚めたことに感謝。生きていることに感謝。学校で勉強できていること、仕事があることに感謝。おいしいものを食べられたことに感謝。一緒にいてくれる友達に感謝。家族に感謝。これらは忘れがちですがとても大事なことです。

数多くある IT 企業の中で当社を選んでいただき、20 年以上使ってくれているお客さまもとても多いので、普段からそのようなお客さまに非常に感謝して仕事をしていますし、常にそのように考えています。

また、目標を決めて書いてみること。将来の自分のあるべき姿ですね。これも結構大事です。幼稚園や小学校のときに、「将来何になりたい？」と聞かれて、サッカー選手、ケーキ屋さんなどと答えたと思いますが、大人になるとそれを徐々に忘れてしまいます。でも、これはとても大事です。実際に紙に書いてみるといいです。

例えば 5 年後にどうなりたいかを書くことができます。10 年後にどうなりたいかなんて、今から分からないと思うかもしれませんが分からなくても構いません。理想なので好きなことを書けばいいのです。それは誰に見せるわけでもありません。書いたことがその通りにならなかったとしても、誰がばかにするのでしょうか。それは自分の設計図なので、夢で構いません。

今から 5 年後にはみなさんは社会人になっています。社会人 2 年目で「このような仕事ができるようになっていたい」ということを書けるかもしれません。社会人になって 2 年目なので、「少し頑張って車を買う」というようなことでもいいです。しかし、車を買うということだけではだめです。トヨタがいいのか、BMW がいいのか具体的に書きましょう。それから 3 年後くらいには、家を買うということでもいいです。家を買うだけではなく、どこに、どのような家を買いたいということを書くといいです。なんでも好き勝手に書いていいのです。

書いたものは小さく折り畳んで、机の引き出しの奥に入れておけばいいのです。たまにそれを出して見て、にやにやすればいいのです。実は、これはとても大事なことです。手帳の中や机の引き出しにこっそりしまっておいてたまに見るのです。もしも途中で目標が変わったら、書き直せばいいのです。これをするのはなかなか大事なことです。あの大谷翔平もそのようにどんどん書き出して、今のようになりました。

私はいつも富士山に登るときの話をします。富士山に登るときに、例えば、ある月に富士山に登ろうと思うとそれに合わせていろいろな準備をするわけです。装具を買いに行ったり、富士山のことを調べたり、どこから何時に登るかを決めたりします。また、その日はどのように富士山まで行くか、電車でいくのか、前の日から登って山小屋に泊まって日の出を見て帰るのか、などいろいろと計画します。実は、計画しているときが一番楽しいのです。それをきちんと計画するからこそ富士登山が成功するのです。

今日、酔っ払った勢いで、酔っ払ったままで「富士山に登るぞ」ということで、行くと大変なことになります。今は夏なのでのたれ死ぬことはないかもしれませんが、冬なら途中でのたれ死ぬか、凍え死ぬか、引き返して帰るかのどれかです。きちんと計画して行けば、富士登山は恐ら

く成功します。それと同じような話です。ですから、そのようなことを書いておくというのはとてもいいことです。準備をするのはとても大事なことです。

■まとめ

本日、ここまででいくつかの事例を紹介し、インターネットの背景や、私の学生時代のことなど、いろいろなことを話しました。今の話に出てきた、PC、インターネット、スマートフォンなどは全て道具です。もちろん、道具は便利なほうがいいに決まっています。切れない包丁を使うよりは、きちんと研がれた、切れる包丁を使うほうが絶対に良い料理がつくれます。

道具の使い方を知らないために、自分の時間を無駄にしてしまうことがあります。また、他の人に危害を加えることもあります。またそれが巡り巡って、自分に戻ってくることもあります。炎上などはまさにそれです。自分がしたことが巡り巡って自分に戻ってきて、ネット上にさらされて、情報がネット上に出たままになっています。そのようなことが増えています。
インターネットが出現して 30 年が経過し、皆が便利に使うようになりましたが、誤った使い方によって引き起こされている問題は、とても多いと思います。

私もいろいろな所で話をしていて、いろいろな学生に会います。今はデジタルで何でもできる時代だと思っていますが、人間の存在自体は極めてアナログなものです。このようにお話ししているのもアナログです。おいしいものを食べるということ、物を買って使うことなども極めてアナログ的なことです。全てがデジタルだけでは完結しません。食事を取るのも Zoom ではできません。

それをはき違えてしまって、何でもデジタルでできると思っている人も多いかもしれませんが、それは全く違います。私はずっと、デジタル時代を生きているからこそ、アナログの心を忘れないでほしいと言っています。人間の存在自体は正にアナログです。そして、主体は人間です。道具に振り回されないでください。道具は、自分が必要なときに使うものです。道具を使って、それに振り回されるのは本当に愚かなことです。

そのようなことを意識して学生生活を送るのと、意識しないで送るのとでは全く違うと思います。これは誰のためでもなく、将来の自分のためです。将来の自分のために、そのような意識を持って生活をしていただきたいと思います。

本日話したことが皆さんの印象に残って、これからの学生生活に少しでも役に立てば、これほどうれしいことはありません。ぜひ、これからの学生生活を楽しんで、すばらしい社会人、また大人になってください。それでは、これで終わりたいと思います。ご清聴どうもありがとうございました。

（2023 年 6 月 23 日 中央大学多摩キャンパス 11 号館 11430 号室にて収録）

－講師プロフィール－

チェックフィールド株式会社代表取締役、東京都認定ｅメディアリーダー。総合政策学部 4 年在学中の 1999 年 7 月に現在の会社を設立、今年（2023 年）で 25 年目を迎える。業務では中小・中堅規模法人向けの IT 導入・運用コンサルティング、運用管理代行を中心に約 100 社の IT 環境を総合管理している。フジテレビ「ホンマでっか⁉ TV」に「ネット問題評論家」として出演中。